

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成23年7月号

まず自分の気持ちを

親が一番よく口にする言葉の三つは、「早くしなさい」「がんばりなさい」「勉強しなさい」だということです。皆さんにも覚えがあるのではないのでしょうか？

しかし、なぜ早くして欲しいのか なぜがんばってほしいのか なぜ勉強してほしいのか その理由をきちんと話せる親は案外少ないと思います。親は、意外と自分の気持ちを子どもに伝えていないものです。その思いをきちんと子どもに伝えていくことが分かり合える親子になる第一歩だと思います。「歯を磨きなさい！」というより「お前が虫歯になると痛いし、食べ物もしっかりかめなくて体を悪くするから、心配なんだよ。」と言うように。

自分の気持ちを伝えるのはなかなか訓練をつまないとできないものです。そのためには、まずお子さんで訓練をつむ事が一番の基礎練習となります。子供は大人と違ってとても素直で親思いですから、親の気持ちが伝わればすんなり聞いてくれる事が多いからです。

親業インストラクターの鈴木みどり先生にお聞きしたお話です。

ある、引きこもり3年目の中学生をもつお母さんがいました。そのお母さんは、時々外出する息子さんが、帰ってくると自分の自転車を納屋にきちんと片付けず、必ず納屋の前に放っておくのがとても嫌でした。お母さんはきちんとした人でしたから、隣近所の人に、「だらしない家だ」と思われそうで、とても嫌だったそうです。それで、毎日ぶつぶつ心の中でつぶやきながら、息子さんの自転車を片付けていました。その時、ぶつぶつぶやかず、自分の思いを伝えればよかったのに、なかなかそれができませんでした。

そんなある日、何を思ったか、息子さんが夕方になって自分の自転車を片付けているのです。「ああ、今日もだれも来んだ・・・」とつぶやきながら。お母さんはそれを聞いてはっとしました。「この子がいつも自転車を片付けないで出しておくのは、『僕がいるから遊びにきて。』というメッセージを送っていたんだ」と気がついたのです。それから2人で初めて自転車のことで話ができました。そして話せば気持ちが通じ合うということがわかったからでしょうか、息子さんは、それからほどなくして、学校へ再び行けるようになったということです。

子どもが小さくても、「どうせわからんわ」などと思わずに、子どもにわかるように、やさしい言葉で親の思いを語る練習を日頃から積み重ねていきましょう。この訓練をしていけば、大きくなって、深刻な問題で真剣に話し合わなければならぬ時にも、どんなに役に立つことでしょうか。そして、親子だけでなく、夫婦や、おじいちゃんおばあちゃんとのよい関係作りにも大いに役立つようになります。

「あの子は何も気持ちを言ってくれない」というお母さんお父さん、まずは自分の気持ちを伝えることが大事だと思います。子どもの行動をあれこれ想像し、イライラを募らせる前に。そうすると、そんな親の心に応えて、お子さんがぼつぼつと気持ちを話してくれるようになります。何かを変えたいと思ったら、まず自分から。これが仲の良い明るい家庭を築いていく基礎となると思います。